

わが動労千葉の3月決戦闘争への手づかき情報 総論 本部突破り集団

日刊 動労千葉

81.4.15 No.715

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六(公衆)四三三(22)七二〇七

デマ情報「動力車千葉」[★]2号を批判する(その1)

われわれは、この間「日刊」を通してわが動労千葉の助役機関士線見阻止闘争を皮切りとし、十六日間に及ぶ三月ジェット決戦闘争の中で「本部」反動分子が文字通りスト破り集団として公然とわれわれに敵対したばかりか、国鉄当局・権力に保護願いを出すなどますますむき出しとなったその反動性・反労働者性について再三にわたって明らかにしてきた。

しかし、われわれは、しょうこりもなくわが動労千葉破壊Ⅱ解体策動をくりかえす「本部」スト破り集団を絶対に許さず、反動的・反労働者の事実の一つ一つについて何度でも明らかにすることを通して、一層彼らを追いつめ、動労大改革運動の大前進をかちとろうではないか。

線見阻止闘争に対するハズレな八つ当りとケチつけについて

動労「本部」スト破り集団は、一ヶ月半ぶりに発行した「動力車千葉」(第二号)において、わが動労千葉の三月ジェット決戦闘争の爆発に対し始めから終りまで驚きと意外性を卒直に表わし、憎悪をむき出しにした全くのハズレな八つ当りとケチつけを行ない、何んとかわれわれの闘いの意義と成果を低め、抹殺しようとしてやっきとなっているのである。

「助役機関士線見阻止」の真実「などと仰々しい見出しをもって、実は、全くのウソとベテンを書きつらねているのである。」

すなわち、われわれが全力で闘い抜いた助役機関士線見阻止一週間闘争に対し、①「堀口支部長は、区長との間で訓練助役を乗務させることを確認していた」「たまたま訓練助役が乗務しないまま機関車が動き出したまでの事である」とか、二月二十一日の成田支部における日暮・大須賀両機関士の闘いに対して、②「支部長のメンツを立てるために当局にお願いして運転室から公安機動隊に強制排除してもらった」。従って、③「最初から線見実力阻止はやる気がなかったのだ」。そして、④「下部組合員の目をそらし、ごまかすために動労本部Ⅱスト破りなる一大キャンペーンを行なった」などなど。

線見訓練に卒先協力したのは一体誰れだ!

しかし、そもそも、助役機関士線見訓練の始まる当日の二月十九日付組合掲示をもって「助役機関士線見の受け入れを決定」などと組合員に指示していたのは、一体・全体誰れだったのか。

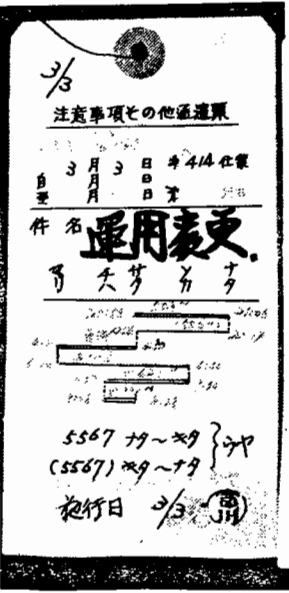
「本部」スト破り集団自身ではなかったのか。しかも、この「受け入れ」の条件がこともあるに「公安官の助勤体制・ガードマン・県警・防護フェンスなどでジェット燃料列車の安全運行を確保することが確認された」からであるというのである。

そして、助役機関士線見訓練中、彼らは、終始当局・公安官に手厚く保護されて、助役機関士と共に機関車に乗り込み、わが動労千葉の闘いに対し公然たるスト破りの裏切りと敵対をくりかえしていたのである。

このような自らの裏切りと敵対をさせておき、佐倉支部における線見訓練阻止闘争を「たまたま助役機関士が乗務しないまま機関車が動き出したまでのこと」などと描き出し、あまつさえ、成田支部での闘いに対しては「日暮支部長のメンツのため公安機動隊による強制排除を当局にお願い」などと誰れの目にもすぐわかるベテンとウソをもって書きつらねているのである。

そして、自らつくり上げたベテンとウソをもって「従って、動労千葉は、線見阻止闘争を最初からやる気がなかったのだ」「組合員の目をそらすために動労『本部』革マルⅡスト破り集団とキャンペーンを行なっている」などと自らのスト破り行為をあたかも当然のこととして居直っているのである。

われわれは、このようなベテンとウソをもってわが動労千葉の闘いに敵対をくりかえす「本部」スト破り集団を絶対に許すことは出来ない。



3変で 助役機関士のスト破りに協力した本部派